

なく、1～数回の全麻下手術を行っている症例で、原因は腫瘍の急速な増殖による気道狭窄と術後出血であった。

2. 緊急に気管切開だけした1例は癌末期患者で、病室にて延命効果を期待し、気管切開を試みたが、後屈の体位が不可能のため、全麻下にて気管切開を施行したものです。

演題 13 ポケットプローベ、スケーラーの歯周ポケット内到達度について

○鎌田英史, 清水隆公, 高山 透
森川伸彦, 中林良行, 菅原教修
上野和之

岩手医科大学歯学部保存学第二講座

ポケット内のスケーリングとルートプレーニングの徹底は、その後の治療の成否のみならず治療法の選択とも関連して重要である。歯周外科の是非に対する見解などは、複雑なポケット内のスケーリングやルートプレーニングがどの程度まで可能であるかという検索なしに、これを論ずることはできない。今回、通常と荷重スケーラー、および種々プローベによるポケット内への到達度についての実験を試みたので、その検索結果について報告する。

検索に用いた器具は、現在市販されている数社製のシクル型およびキュレット型のプローベと、超音波プローベであり、検索部ポケットは荷重と通常のプローベ両者によって評価した。また、被験歯は抜去予定歯を用いて、測定終了後抜歯を試み、予め刻印した歯根面についても、ポケット底相当部までの距離をノギスを用いて測定した。検索者は実験Ⅰでは2名、実験Ⅱでは経験13年以上の者2名、2年未満の者2名の4名で行ない、測定面は1歯につき、頬側近遠心、舌側近遠心の4面とした。

その結果、ポケット深度では、経験13年以上の検索者の頬側近遠心面のみ通常と荷重プローベの間に有意差がみられた。また、プローベによるポケット測定値が実際のポケットの深さより高い数値を示すことがあるかどうかという点に関しては、ポケットの深い例では測定時にポケット底部を根尖部に押し下げるといった従来の検索結果と一致していた。この傾向は荷重プローベのほうが強かった。各種スケーラーのポケット内到達度についてみると、種類よりも刃部の形態に関連があり、刃幅の狭い器具で到達度は良好であった。プロービング、スケーリングともに、測定部位間、検索者間、検索者の経験年数間には、特に有意差はみられなかった。また、超音波プローベは予想以上に深部に達していた。

質 問：塩山 司(補綴2)

1. 荷重プローベの方が通常プローベよりも、測定値が深くなっているが、逆のものはなかったか。

2. 一般臨床において、正常歯肉においての荷重プローベの使用についてはいかがでしょうか。

回 答：鎌田 英史(保存2)

1. 今回は、高度の歯周疾患罹患歯のみを抜去し測定しているため、健全歯では測定しておりません。

2. 荷重プローベは、健全歯で疼痛を訴える例が多かったため使用しておりません。

演題 14 トンガ人成人の歯科疾患

○田附敏良, 亀谷哲也

岩手医科大学歯学部歯科矯正学講座

トンガ王国では、近年、都市化が急速に進むと同時に食環境の変化も著しく、成人病や歯科疾患の増加が問題となっており、1984年度文部省海外学術調査によって医学、栄養学調査が行われた。演者らはこの調査で口腔診査を担当し、同国の歯科疾患の実態を知ることができたので、今回は成人のそれについて報告した。

方法：診査対象者は、首都のコロフォウ地区(K地区)で197名、離島のウイハ地区(U地区)126名、総計305名で、齲蝕、歯周疾患、不正咬合のそれぞれを歯科総合調査の基準に従って診査した。

結果：(1)齲蝕；成人全体の齲蝕有病者率は49.8%、齲蝕率7.0%、処置齲率54.0%、重症齲率24.0%、喪失齲率28.0%であった。(2)歯周疾患；歯肉炎の重症度では健康な者が22.1%であった。また歯肉ポケットを表すperiodontal indexでは、上顎は20歳代から60歳以上まで10歳毎にそれぞれ1.3, 1.4, 1.7, 1.9, 2.3で、下顎は1.2, 1.4, 1.8, 1.9, 2.4であった。K, U両地区を比較すると、K地区では上顎1.5, 下顎1.6, U地区では上顎1.8, 下顎1.8となりU地区の方が高い。前歯、側方歯、大白歯と歯群別に見ると上顎では1.5, 1.7, 1.8で、下顎は1.8, 1.7, 1.5となり、上顎は大白歯群に、下顎は前歯群に病像の進行が認められた。(3)咬合；正常咬合81.9%、不正咬合18.1%、下顎前突2.4%、反対咬合4.4%、叢生8.5%、上上顎前突2.8%の割合で認められ、不正要因では骨格型2.8%、機能型6.5%、discrepancy型12.5%であった。

考察：成人に見られた歯科疾患は日本人に比較して低い。しかし、食環境の近代化に伴う口腔内環境汚染とdiscrepancyの増加は今後強くなることが考えられる。一方、歯科医療環境はまだ十分に整備されておらず、将